

## 特集：彦根景観シンポジウム2016

# コミュニティデザインで進める城下町彦根のまちづくり

## ワークショップ ～みんなで芹橋を「住みたくなるまち」に～

彦根景観フォーラムは、2016年10月22日（土）、第11回目の彦根景観シンポジウム2016を彦根市芹橋二丁目の辻番所・足軽屋敷旧磯島家住宅で開催しました。芹橋二丁目まちづくり懇話会などとの共催で開催した今回は、「コミュニティデザインで進める城下町彦根のまちづくり」をテーマに、住民参加のまちづくりに活躍されている建築家の松井郁夫さんを招き、講演とワークショップを行いました。

ワークショップでは、彦根には「市民と行政と専門家（NPO）」の協働の「仕組み」が欠けていることが明らかになりました。今回は、協働の仕組みづくりについて事例をもとに考えます。

開会にあたり、濱崎一志・彦根景観フォーラム理事長は、昨年、芹橋二丁目まちづくり懇話会などで「芹橋二丁目まちづくり憲章」が作成され自治会に



提案された。この憲章をどう具体化していくかが問われている。本日の講演やワークショップ

をヒントに取り組んでいきたいとあいさつしました。

### 住民参加のまちづくり

講師の松井郁夫さん（写真右）は、福井県大野市生まれ。伝統的な木組みの家づくりを実践され、古民家再生ゼミなどを主催



されています。

住民参加のまちづくりでは、郷里の越前大野（福井県）、郡上八幡（岐阜県）、八場ダム（群馬県）などで関わっておられ、彦根には、20年前に大野のまちづくりの参考に夢京橋キャスルロードに訪れたことがあるとのことでした。

### 越前大野の景観まちづくり

大野は、金森長近が作った城下町で、中心部は碁盤の目に区画され、外側を寺院群が囲



む空間構成になっています。市街地からは亀山城が望める城下町特有の美しい景観があり、中心部の七間通りの朝市は築城当時から続いているといわれています。

20年前の七間通りは、美濃街道沿いにスーパーマーケットが大きな赤い看板を屋根の上に目立つようにかけていました。当時、アーケードを作ろうという相談が松井さんにあり、これからはまちなみ景観が大切という議論をして彦根など各地をみてまわり、城下町の景観を生かす取り組みを行政と協働



1990年頃の七間通り（松井氏提供）

して実践されました。

まず、城下町大野のマップを作り、これを手に子どもたちも含めてまち歩きをして、大野の良さを発見していきました。その後、ワークショップを積み重ねて、住民の皆さんのまちへの思いを表わした言葉を体系化し、まちづくりの基本目標を作りました。

それは、「時の流れを味わうまち」。この目標を実現するため、「美しい自然をはぐくむ」、「伝統を受け継ぎ、新しい文化を育てる」、「大きく羽ばたくまちにする」、「あたたかい心のかようまちにする」、「まちづくりに参加をうながす」の5つの基本方針を柱とし、それを具体化した13の方針を設定、ワークショップで確認しました。

さらに、13の方針は行政担当者と相談して59のまちづくり指針に展開されました。指針には、住



修景後の七間通り

宅や事業用建物にかかわるルールなど市民や事業者の協力が不可欠なものがあり、行政から協力を呼びかける意味で、指針ごとに景観誘導のための手法や補助制度を示しました。

こうして城下町大野のまちづくりの骨格となる計画ができ、これをもとに市民と行政が協働して街並み整備を進めました。この結果、スーパーの巨大な看板は撤去され、屋根のスカイラインがすっきりと整えられました。外灯も軒先から出ないように整備し直し、間接光で建物を美しく浮かび上がらせました。また、地元の醤油屋さんがトタンの看板をはずして木の看板にしたり、コンクリート3階建て建物の壁面になまこ壁が貼られたり、通りに面した車庫前面を白壁のデザインに変えるなどの自発的な取り組みが次々と起こりました。



てもらって設計されました。こうして、大野は、城下町の風情を取り戻し「訪れて楽しいまち」に再生していったのです。

## 郡上八幡の住民参加のまちづくり

郡上八幡は、道の両側に清流が流れる水路と袖う

だつのある民家がつらなり、突き当りには大きな寺院とその後ろに山がみえる城下町です。



約15年

前、町の担当者は、郡上八幡の未来にはこの景観を維持向上させることが不可欠と考え、「街なみ環境整備事業八幡中央区域整備計画」づくりの応援を松井さんに依頼しました。既存の「まちづくり協議会」の中に「八幡中央区域街環代表者会議」を再編成し、9自治会から代表者を選出して、まず中心市街地の宝さがしと全体ワークショップを実施しました。その後、地区別に2回のワークショップでまちづくりの課題を話し合い、全体ワークショップで集約、まちづくりの整備課題を話し合い、再び地区別ワークショップで地区ごとの整備課題を洗い出し、まちのイメージ提案やまちなみづくりのルールの提案について話し合い、全体ワークショップで、整備プロジェクトとまちなみづくりルールを確認しました。

ワークショップでは、マップを作ったり、町の人が町の人にアンケートしたり、ルールは旗揚げゲームで決めたりしました。



アンケートする町民（松井氏提供）

こうした積み上げにより、「1、水の恵みを活かすまち」「2、お城や山並みと共にあるまち」「3、今あるものを活かすまち」「4、歩行者中心の人にやさしいまち」「5、人をもてなす気持ちを大切にしたいまち」「6、生き生きとした賑わいのあるまち」「7、まちのみんなで話し合い、地区ごとで決める」という7つの「まちづくり理念」が共有されました。

その上で、主に行政が担当する、道沿いの水路で鯉などを飼うエイ箱の整備や看板の統一、通路の整備、河川のライトアップ整備、駐車場の整備などの整備計画を作るとともに、みんなで守る「街なみづくりのルール」を決めました。（次頁に続く）